

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 2 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520073

研究課題名(和文) 社会調査法に基づく寺社における御籤・神籤に関する思想史研究を中心とした総合的研究

研究課題名(英文) The overall study which made the history of thought research work about written oracle in temples and shrines based on social investigation law

研究代表者

大野 出(OHNO, Izuru)

愛知県立大学・日本文化学部・准教授

研究者番号：60247418

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最終年度にあたり、これまでに送付し、返信を得られた寺院からの回答を各宗派ごとに、その回答を数値化し、なおかつグラフ化し、その回答を整理かつ分析を行った。

宗派別に言うと、天台宗、真言宗、曹洞宗、臨済宗、黄檗宗、日蓮宗、法華宗である。その結果として、最も御籤に対して積極的な関与をしている宗派が天台宗であることが判明した。ついで御籤に積極的に関与しようとしている宗派が、真言宗であることも同時に判明した。

研究成果の概要(英文)：The answer was digitized every each sect, and still an answer from the temple where you could send so far in case of out year of this research and get an answer was graphed, and the answer was put in order and it was analyzed.

When I say according to the sect, they're Tendai-shu, Shingon-shu, Soto-shu, Rinzaishu, Obakushu, Nichirenshu and Hokkeshu.

It was revealed as the result that the sect doing aggressive participation to the lot most is the Tendai-shu. Next it was also revealed at the same time that the sect going to participate in the lot aggressively is Shingon-shu.

研究分野：日本思想史

キーワード：御籤 神籤 みくじ 社会調査法 寺院 天台宗 真言宗 天道

1. 研究開始当初の背景

本研究に先立つ基盤研究Cにおいて、全国の神社に対してアンケート調査を行ったところ、著しい成果を得られたことが本研究の背景にある。

2. 研究の目的

本研究では、日本思想史およびその周辺分野において、従来、非知的なものとして研究の対象から半ば暗黙のうちに除外されてきた研究対象に新たな光を当てることを大きな目的とし、日本全国の寺社において用いられている御籤・神籤、あるいは旧蔵されている(現在は用いられていない)御籤・神籤を社会調査法に基づき調査をし、史料を発掘し、調査、分析するとともに、仏教における宗派ごとの御籤に対する意識の相違、さらには寺院と神社における意識・認識の相違あるいは共通性を照射することを目的としている。

3. 研究の方法

全国の寺院に対して社会調査法に基づくアンケート調査を送付することを主たる方法とした。

4. 研究成果

本研究の最終年度にあたり、これまでに送付し、返信を得られた寺院からの回答を各宗派ごとに、その回答を数値化し、なおかつグラフ化し、その回答を整理かつ分析を行った。

宗派別に言うと、天台宗、真言宗、曹洞宗、臨済宗、黄檗宗、日蓮宗、法華宗である。

その結果として、最も御籤に対して積極的な関与をしている宗派が天台宗であることが判明した。ついで御籤に積極的に関与しようとしている宗派が、真言宗であることも同時に判明した。これに反して曹洞宗および臨済宗はその教義と御籤との間に距離がある旨の回答が多数あったことも明らかになった。また、日蓮宗においては、御籤と距離を置いている寺院が多くある一方で、本山である身延山においては、日蓮の言葉を用いた独自の御籤を用いていることも同時に明らかになり、御籤と教義の距離感は、天台宗、真言宗と曹洞宗、臨済宗の間に位置するであろうことも明らかになった。

また、前年度においては、日本全国の全ての法華宗寺院に向けて御籤に関するアンケートを送付した。法華宗に関しては黄檗宗と同様に法華宗の御籤というものが存在しているため、全ての寺院に向けて送付するという悉皆調査を行ったという事情がある。その結果、法華宗においては黄檗宗と異なり、今

でも法華宗独自の法華経の御籤を用いている寺院が多数あることが判明した。

また御籤を結ぶという行為に対する意見も多数収集することができた。

たとえば禅宗の場合は以下の通りである。

御籤を木などに結んでいくことに関して何か説明をしているか。

特に説明は加えてない。参拝者の自由で木や枝に結んでおられる/本人が悪いと思うもの。実際はほとんどの人が結んでいきます。/説明はしていません。吉凶に関わらず結びたい人が結んでいます。/説明はしていません/個人の自由 本人の自由意思で/おみくじが束状の記憶カードのような形態。無くなれば取り寄せる。/吉凶に関わらず結んでいるように思いますからけして、必ずしも結ばないといけないものでもないと話します/参詣者の意志にまかせている。/当寺においては、常時おみくじを用いておらず、11月8日と11月12日の薬師大祭のときのみ、おみくじだるまとして用いており、おみくじはだるまの中にはいっており、あまり結んではいけないようですが、特に説明はしていません。/説明していません/すべて参詣者に任せております。/説明していない/祈っていることの成就を指して結ぶとする/本来持ち帰り、懐中するもの。結ぶ、持ち帰るは本人の気持ち次第/どの吉凶を結びなさいとの説明はしていない/当寺の「おみくじ」は紙に印したものでなく、六角の筒状の箱に棒のおみくじが入ったものです(一~百の百本入り)/凶...大凶/何も指導はしていない/凶/内百首は事物古決を明す。内百首は疾病仙方を示す。/どちらでもよいと話します。出来ればもって帰って内容を再読して以後の自分の考えや生活の中に生かしても話します。/凶、または凶以外でも良くない項目があった場合に限り樹木でまく、現在は業者より購入した「おみくじ結び処」の縄に結び付けるよう指示している。ただし、現況は時代に合わせ「凶なしみくじ」を使用している。/おみくじは、持ち帰り、大切に護持することが基本と考えます。/吉も凶も、寺に全ての心を置いていく。いわゆる心の掃除ですね。そこに運が開けて来る。/凶のおみくじを結び、吉は持って帰る。/説明していませんが、参詣者が勝手に立木に結んでいます。/当寺のみくじは竹筒の中に数字と大吉、半吉、吉と凶、大凶を墨書したもので、そのくじと解説文と照合して、内容を伝える。/参詣者自らの行為で結んであり説明はしない。/吉凶は参考にはさほど心に留めることはありません。大凶が出て凶この時が一番悪く後は良くなっていくだけと考えることができます。それよりも自分が知りたいことをちゃんと心に唱えてからみくじを引き、その項目にある助言をよく読むことが大切です。/大吉以外を結ぶ/参詣者に任せてありますが、よくても(大吉)でも、さほどでな

くても(小吉)でも結ぶ人はいます。凶とかはありません。大・中・小の吉だけ!少し残念な人には「結んだら...」と云ってます。/かつては寺の境内におみくじを木の枝などに結んでいた。

説明は特にしていない。/おみくじを結ぶ笹竹は用意してありますが何を結ぶかは自由です/おみくじは、木などに結ばずに、本堂正面の古いお札・お守りを返す箱の中に入れるようお願いしております。(吉凶かわからず) 結ぶようにとは説明しておりません。/「参詣者の自由」としている。/当寺では、運勢の吉凶にかかわらず、あくまでも参詣者の意志にゆだねております。/すべてのおみくじ/厄落とし/聞かれれば、吉の方には「良かったですね良きことが続きますように...」凶の方は、「仏様をお願いして(凶を取り払うよう)結んでいかれたら」と説明します。/「大吉」と出ても内に書いてあることは注意をうながすことが記されていることもあるし「末吉」にあっても、その人にとって良きと書いてある場合もあるので/吉方のものは、縁を結んで確かなものにする凶方のものは、えんま様に払って頂く/吉は、願が成就する為に結び、凶は、厄を持ち帰らず、祓うために。/吉凶は暦に関わらず人に因ると同じ おみくじの言葉も、その人の心のありようである。/厄彩消除の為に凶運を払ってくれるように/漢方薬/縁起が悪い事項があった場合は、本来それを境内の樹に結び付けて転嫁させてしまうため、と説明している。ただし、より良くなるように大吉でも高い場所に結び付けていく習慣のある地方もあるので、一概に決められないと言っている。/寺の本尊佛土観音様との縁を結び、心のお掃除と共に運が開けることへの縁結びをとる。/みくじ箱に大書してある。凶におこらず、吉にくじせず、これを大吉となす。/おみくじはその言葉を自分の心の中だけにしまい、神仏との縁を結ぶため持ち帰らずに枝松などに結んでゆく。悪いみくじが出たらおいて帰るというものではない。/特に説明はしておりません/大吉は最上のもの以外は勝運を希う/おみくじを引くのが楽しいからで、「縁結び」「安産」などの祈禱願にくる娘さんたちが、又来てくれたらいいからです。お寺の門を潜ることが、何よりと考えています。/ですが、聞かれたら 良いものは、サイフなど入れて持ち歩き 良くないものは、梅の木に結んでいって下さいと言ってます。/当時、おみくじが満足なものでなかった場合このくじを返さして更に良いことがありますようにとの意味と思われる/・願いをこめて ・感謝の気持で ・捨て去りたい気持、思いを納める/別に聞かれる事がないので、各自、思うようになさっています/当寺は龍神信仰の祈禱道場で、信者は八割強が東日本(北海道、東北、関東、中部)の漁業関係者で、東の善宝寺、西の金毘羅様といわれております。漁業関係者の方々には仕事上

非常に演技をかつぐので吉凶にかかわりなく結ぶよう言っております。吉は希望がかなうように、凶は当寺でおはらいして吉に変わるようにと。/ご縁を結ぶ様におみくじも結んで下さい。

かてて加えて、鎌倉長谷寺および浅草寺で用いられている独自の御籤に関しても、御籤本諸本の調査を通じて、それぞれ如何なる御籤本に基づいているかも判明した。

特に鎌倉長谷寺の御籤は明治初頭に作成されたにもかかわらず、研究代表者が注を持つ御籤本の中で最も古い形態のものであるとするA系統に属するものであることが判明した。

すなわち鎌倉長谷寺の御籤においての信仰対象は「天道」であることになる。

なお、本研究の成果については別途『おみくじの起源』(汲古書院刊)及び『おみくじの文化史』(吉川弘文館刊)から近く発刊される予定である。

また、本年6月27日に一般財団法人神道文化会主催の公開講演会(於:國學院大學)において「おみくじと神道文化」等の講演を通じて報告していく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

「天道論」(P56~P62) 査読無(『日本思想史学』第44号)2012年刊 所収
大野出, 加藤みち子, 阿部光啓

「思想史としてのおみくじ」(P37~P45) 査読無(『日本思想史学』第46号)2014年刊 所収
大野出, 加藤みち子, 島田健太郎, 芹澤邦寛, 平野多恵, 小平美香

〔学会発表〕(計2件)

大野出(代表)「「天道」論—「天道」とは、いったい何だったのか—」(パネルセッション)日本思想史学会2011年10月30日 於: 学習院大学(東京都豊島区)

大野出(代表)「思想史としてのおみくじ」(パネルセッション)日本思想史学会2013年10月20日 於: 東北大学(仙台市青葉区)

〔図書〕(計1件)

大野出 『神さまが嫌う最悪参拝 仏さまが喜ぶ最良参拝』 講談社 (2012) 総ページ数 208 頁

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大野 出 (OHNO, Izuru)
愛知県立大学・日本文化学部・准教授
研究者番号：60247418

(2) 研究分担者

松宮 朝 (MATSUMIYA, Ashita)
愛知県立大学・教育福祉学部・准教授
研究者番号：10322778

島田 健太郎 (SHIMADA, Kentaro)
学習院大学・文学部・講師
研究者番号：30468433

平野 多恵 (HIRANO, Tae)
成蹊大学・文学部・准教授
研究者番号：60412996

(3) 連携研究者

加藤 みち子 (KATO, Michiko)
公益財団法人中村元東方研究所・研究員
研究者番号：10306524